

愛媛大学

導入の目的

本学には、城北・重信・樽味・持田の4つのキャンパスに分かれている。また、聴覚障害のある学生全員が城北キャンパスに在籍しているが、講義および教育実習で、他のキャンパスに行くことがある。

これらのケースでは、支援学生も城北キャンパスから他のキャンパスに向かってもらうことになり、移動・拘束時間が長くなるため、コーディネートが難しい側面があった。

以上のことから遠隔情報保障システムの導入を行った。

使用した場面



運用の詳細

・モバイル型情報保障システム

連携先

城北キャンパス←→重信キャンパス

城北キャンパス←→樽味キャンパス

城北キャンパス←→持田キャンパス

利用実績

平成24年度 22.5時間〈15コマ〉

平成25年度 31.5時間〈21コマ〉

独自の工夫

防音室内に専用の入力スペースを設け、音を聞き取りやすい環境を整えた。

・教員から資料を事前に受け取り、事前に専門用語の登録を行った。

苦勞した点

・教室の雰囲気や音声だけでは伝わりにくいため、些細なニュアンス等が読み取れない

・学生の発言が聞き取りにくい

・トラブルが起こったときに利用学生に情報を伝えにくくなる

利用学生

・友達と隣同士で座ることが出来るようになったことがとてもうれしい。

・グループワーク中に話者にマイクを渡さないと音声拾えなくなり、質の良い文字情報が届かなかった。

支援学生の声

・他のキャンパスまで行く必要がなくなったので、拘束時間が短くなって楽になった。

・事前に資料をもらえる方が通訳の質が上がるので出来るだけ事前に資料が欲しい。

・ビデオ上映の時に字幕の有無が分からず、支援を継続すべきか悩んだ。

教職員の声

支援学生の他学部への移動時間を削ることが出来るため、柔軟にコーディネートをすることが出来るようになった。

・利用学生は支援学生と隣同士で座る必要性がなくなったため、自分の友達やグループのメンバーと一緒に着席することが出来るようになり、自然な形で講義に参加できるようになった。